

大井冷光 （おひやうか） 兒童文學者、登山家。明治十八年十一月二十四日富山縣上新川郡西三郷村生れ、大正十年二月十五日歿（一八六一—一九二一）。本名信勝。筆名一ひ、光、影船、翔星、月影、桂葉、波葉、白砂、谷生。明治二十二年富山縣立農學校入學。在學中久田賢輝（一葉）等と文藝同好會を組織、松葉會と名附けて回覽雜誌「面影」を作つた。二十九年「高岡新報」記者となり、翌年井上江花企劃の立山探檢隊に參加、次で「立山案内」（明治四十一年六月二十日清明堂）を處女出版。四十一年「富山日報」に移る。この間「越中お伽噺」第一篇、第二篇、「越中昔噺」（以上明治四十一年刊）を著はした。その後富山へ講演に来た久留島武彦を知り四十四年上京、久留島の經營する早蕨幼稚園の助手、幼年雜誌「お伽俱樂部」の編輯、更に最初の兒童文學者組織と云される少年文學研究會を創設するなどした。また博文館編輯員となり、館主催の日本アルプス探檢隊には少年達を率ゐて信州から立山への登山を完行。

大正元年時事新報社に入り、雜誌「少年」、「少女」記者、編輯を擔當、少年小説等の筆を執つた。この年「乃木將軍逸話」（大正元年十月十一日富田文陽堂）を著はす。爾來久留島等と共に口演童話家として全國を回つてゐたが、神奈川縣逗子小學校での口演中、心臓麻痺で急逝。生前童話集等十數冊出版、遺著に「鳩のお家」（大正十年五月八日富山房）。「天の一方より—大井冷光作品集」（大村歌子編、平成九年七月—二十日富山・桂書房）がある。